



コアノンロールの
製造をおこなっている

大分製紙株式会社(大分市)が 日本ユニセフ協会より 感謝状を授与されました!!

みなさんは、copeのトイレットペーパー「コアノンロール」がユニセフ募金としても活躍されていることをご存知でしょうか?

1パックの購入で1円がユニセフを通じてアフリカ南西部のアンゴラ共和国の支援金として活用されています。アンゴラ共和国の子どもたちの学校環境を整える支援を目的としたこのプロジェクトも2010年11月にスタートし、早くも第3期目の取り組みがスタートしています。

このたび、日本ユニセフ協会より日本生協連と全国でコアノンロールを製造している7つの会社(そのひとつが大分市にある「大分製紙株式会社」です)それぞれに感謝状が授与されました。



今年でコアノンロールが誕生して30年目になります。

copeおおいたの組合員さんに支えられ、ここまでコアノンロールという商品を定着させることができました。御礼申し上げます。

コアノンロールは品質が良く、使いやすい商品であると同時に経済的な商品です。

ご利用いただくことで環境保全や今回のスマイルスクールのような社会的貢献活動にも同時に参加できます。

コアノンロールは常に新しく進化し続けています。今後ともご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

大分製紙株式会社
代表取締役社長 田北 裕之



第1期 (2010年11月1日～
2011年10月31日)
募金額:960万7697円
(計/960万7697パック)

第2期 (2011年11月1日～
2012年10月31日)
募金額:912万8901円
(計/912万8901パック)

第3期 (2012年11月1日～
2013年10月31日)
現在取り組み中です。
みなさんもご参加ください。

生協からの募金は、手洗い場の整備や教員の研修などを通じて、アンゴラの子どもたちが安心して学べる環境づくりのために活用されます。

サント・アントニオ校



支援前



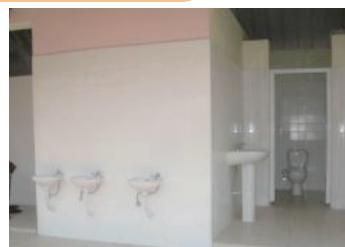
支援後

©UNICEF/Angola2011/Monteir

ドイス・デ・マルソ校



支援前



支援後

©UNICEF/Angola2012/Francisco

そんな生協のユニセフ支援活動の一つとして、2010年11月からスタートした「CO-OPコアノンスマイルスクールプロジェクト」は、ユニコールプロジェクトは、ユニコールプロジェクトを通じてアンゴラ共和国の「子どもにやさしい学校づくり」を支援するものです。具体的には、「CO-OPコアノンシリーズ」を1パック買う度に、1円が募金されます。

アンゴラは、アフリカ南西部の共和国(首都ルワンダです。石油やダイヤモンド等鉱物資源には恵まれていますが、30年間にわたり内戦により経済は極度に疲弊しました。子どもをとりまく環境も非常に厳しく、5歳になる前に命を落とす子どもの割合は

約5人に1人。これは世界のワースト2位です。初等教育の就学率は66%ですが、修了率は35%。地理的、経済的、学校環境暴力や家庭の問題などが原因で初等教育を受けられず、いる6歳から12歳の子ども達は約100万人にものぼります。学校に通うことが叶わない子ども達は、定職に就くことが難しく、失業率が高いことも明らかになっています。まさに、子どもの潜在能力を發揮する機会が奪われているのです。



アンゴラ
共和国

国際児童年の1979年、日々水汲みの重労働に追われる開発途上国の子ども達に「バケツ1杯の水を送ろう」と、日本生協連が国内の生協に呼び掛けたことから、全国的にユニセフ協力活動が始まりました。生協の助け合いの精神は、世界の子ども達を支援するユニセフの活動とつながっています。



▲アンゴラ共和国の子どもが楽しく教育を受けられる環境づくりにご協力を

【CO-OPコアノンスマイルスクールプロジェクト】は、組合員さん一人ひとりの1円の支援で、アンゴラの子ども達に学校の建物だけでなく、きれいな水やトイレなど、先生と楽しくのびのびと学べる学校環境を整えることを目指します。引き続き、組合員の皆さんのご協力をお願いします。

アンゴラに
生協の支援が
届くまで



『CO-OPコアノンシリーズ』
いずれか1パックを
お買い求めください。



1パックにつき
1円がユニセフを
通じてアンゴラ
共和国に。



支援金は
楽しく学べる
環境づくりに
使われます。

アンゴラ共和国の子どもに
やさしい学校を!